

## 子ども活動サポーター会 コバノミツバツツジの郷づくり

地域の自治会・PTAの地区役員などと連携して子どもたちが主体的に活動する子ども委員の活動を支援しています。  
<http://www.facebook.com/pages/コバノミツバツツジの郷づくり/409101189176389>



今年度はコバノミツバツツジの苗木200鉢を育てて、3/4が越年でき、次年度に播種するための種を2000鉢分採取しました。笹路川・菩提寺小学校・菩提寺北小学校周辺のコバノミツバツツジの自生木を確認しました。コバノミツバツツジの、自生種の保護の重要性、栽培方法を記したA3カラー裏表のパンフレットを1000部作成して、住民、学校に配布しました。

コバノミツバツツジの育成技術を確立できたことが成果のひとつです。またハイウェイサイドタウン自治会の有志、菩提寺小学校・菩提寺北小学校の後援会の有志が、コバノミツバツツジの育苗と自生木の保全に取り組むことになりました。

苗のポットや並べる箱は、参加者各自が集めた使い古しを再利用していますが、鉢・赤玉土・ピートモスの園芸資材と、パンフレット作成に助成金が役立ちました。そして平和堂財団が、郷土の自生種を住宅地や小学校で育てることを応援しているという説明ができ、賛同者の拡大につながりました。



## 伊吹山もりびとの会 伊吹山自然保全事業・山頂お花畑ボランティアガイド活動

伊吹山の自然の素晴らしさに魅せられた愛知県、岐阜県、滋賀県、大阪市、京都市から集まった会員73名で構成される団体で、伊吹山の自然を楽しみながらその素晴らしい自然を次世代に引き継ぐ為、夏の花が多いトップシーズンに山頂お花畑のボランティアガイド活動を行っています。  
<http://mt-ibuki.jp>



この助成金で、山頂お花畑植物ガイドブック初夏編の5000部増刷、トップシーズンに来山者を対象に山頂お花畑のボランティアガイド実施（7/23～8/12延16日間活動参加延人数80名）、登山道のショートカット防止柵の補修実施（活動参加延人数17名）、山頂外来種の西洋タンポポ除草（活動参加延人数20名）ができました。これ以外に伊吹山再生協議会・地元上野区・伊吹山を守る会からの保全活動の要請を受けた活動を含め活動参加要員数は延364名、自動車稼働台数109台、山頂ボランティアガイド延16日間、案内スタッフ延80名、エコツアーガイド42本です。

再生協議会の合意および伊吹山地権者の地元上野区と相談の上諸活動を実施した結果、従来よりも地元地域の方々の当会の活動に対する信用、信頼性が増しました。一昨年ドライブウェイの土石流の発生で通行止めとなり、お花畑トップシーズンの活動が阻害され、活動資金に支障をきたしましたが、夏原 Grant 助成でガイドブック初夏編を増刷することができ、また次年度へ活動資金を繰越すことができました。当面（4～5年）の活動資金が確保され、継続的な活動の見通しがたちました。



## 特定非営利活動法人 子育て研究会 こんこん山の里山再生森保全ワークショップ

子育て研究会は「本物の体験を媒介とした子育て支援活動」を行なっています。地域の皆様に支えられて、日々楽しく活動しています。子育て研究会の七転八起日誌  
<http://kosodateken.blogspot.jp/>  
 子育て研究会HP <http://www.fmc-pair.jp/>



放置された里山林の活用再生、里山の環境保全、環境教育を目的に、子どもたちと多様な活動を行いました。特に2012年度はナラガレ被害が大きくなり、活動エリアの拠点木（コナラの大径木）の伐採と被害防止対策を急務として実施しました。活動内容は、森の現状を知るための森歩き、森遊び、森の維持管理に必要な道具使いスキルアップ講習、安全管理、など多岐にわたるプログラムを行いました（ただし林層転換を目的とした在来樹種の種子採集はできませんでした）。今回の活動では、一般的に健常児よりも野外体験が苦手と思っていた障がいのある子どもたちに自主性や積極性が生まれたと実感しています。特に食事を作ったり、遊びを見つけたり、自然素材でのクラフト、道具使い、木に登ったりする活動の楽しさは、忘れられないものであり、大きなやりがいとなったようです。

助成が活かしたと思う点は放置林の間伐により、活動拠点周辺の林層環境が変化し始め、多様な年齢層にも対応した活動場所として活かすことができたこと、高校生や地元企業などボランティア参加者へ提供できるプログラムが多様になったこと、造形作家や音楽家との参加協力が生まれたことです。このことは森保全に関心の低い人々、新しい人々との交流を生みます。

## 白鳥川の景観を良くする会 桜並木の整備による憩いの散策路づくり

発足8年目、現在会員約60名、白鳥川流域の景観向上や桜並木整備で、市民の憩いの散策路づくりを進める活動団体です。  
<http://sky484.com>



定例活動は除草作業や不法投棄のごみ回収等の白鳥川流域の環境整備と5km桜並木の点検補植や天狗巣病の除去、不用枝剪定、防虫害予防等の保守管理を徹底し、市民の憩いの散策路づくりを実施しました。期間中①活動回数18回（2回/月）、②参加者数554人（31人/回）、③除草距離11.4km（680m/回）④ごみ回収2.5トン（137kg/回）⑤保守管理は天狗巣病駆除や剪定8回、補植2回18本、防虫予防1回の取組実績です。白鳥川の河川敷きや法面等の不法投棄ごみ回収や倒木等、約2.5トン回収でき、これにより流域の景観向上やごみ回収の継続で上流での琵琶湖汚染の阻止に寄与できました。また医療センターの入院患者さんや遊歩道を散歩される市内の方より「川面が見えとても気持ちがいい」と好評でした。

定年退職者を中心にメンバーが心をつなぐし、自然がいっぱい残っている白鳥川流域の景観を後世に残していきたいという7年間の継続活動が実を結び、その結果小学5年生の川に入る体験学習の開催や子どもたちとコラボした桜ぼんぼり設置、鯉のぼりの川渡しができ、心豊かなまちづくりに寄与できました。



## 琵琶湖博物館はしかけ 田んぼの生きもの調査グループ 「田んぼのエビ類(大型鰓脚類)」の生息と水田環境

「田んぼのエビ類」と呼ばれるカブトエビ、ホウネンエビ、カイエビなどの滋賀県内の分布や生息に影響する環境要因を調べています。



「田んぼのエビ類」は滋賀県南部を中心に生息しています。県北部で数少ない生息地の長浜地域において、冬に水田土壌がどれくらい湿っているかを調べ、夏にその水田に出現するエビ類の種類と数をカウントして、少ない理由を土壌水分と生息との関連から検討しました。もう一つの活動として、これまで滋賀県ではほとんど確認されなかったアジアカブトエビ（外来種）が、大津市瀬田で分布を拡げているかを調べました。大勢で行なうことにより、瀬田周辺の水田をほぼ調べることができました。

長浜地域の調査では、水田土壌水分がエビ類の生息に影響を与える可能性が示唆されました。大津市瀬田のアジアカブトエビ分布は、水田の用排水を通じて分布を拡大していると推察されましたが、分布はごく一部の区域（1500×300m）に限られることがわかりました。

助成金で購入した野外調査用GPS機器を使うことにより、目標物のない水田域で個々の田んぼを間違わずに調査できるようになりました。また、正確な位置情報を記録できましたので、再調査における経年変化の確認が容易になりました。



## 特定非営利活動法人 芹川 子供達の芹川伝承記録づくりと子供達と共に芹川花いっぱい運動

芹川の清掃活動からはじまり、親水活動、子育て支援（学童受託事業）活動へと。今では、学童が良くなれば学校も良くなることを信じて活動をしています。  
<http://nposerigawa.com/>



当初、花いっぱい運動は日本水仙を植える計画でしたが、専門の先生にお聞きし在来種のシャクの種類を上流の多賀まで取りに行き、後三条橋の東詰めに直植えをしました。プランターに植えた日本水仙は、自然とマッチしないという感じがしていました。しかし、室町時代の在来種ということで日本水仙は直植えできませんでしたが、在来種シャクの気づきがあった点は良かったです。今後は少しずつ意識をしてシャクを増やしたいと思います。

伝承記録づくりは、子ども達が地域の人から話を聞いて描き、作家、先生が協力する協働作品になりました。本づくりは子どもたち、作家と先生の初めての協働作業であり経費と時間を要しましたが、いいものに仕上がりました。子どもたちが自分で描いた絵が絵本になるという体験は、将来に大きな影響を与えると信じています。

